

2018年3月期第1四半期決算 説明要旨

株式会社リクルートホールディングス

2018年3月期 第1四半期業績

■連結業績ハイライト

当第1四半期は連結売上収益が前年同期比19.6%増の5,243億円、EBITDAは13.9%増の718億円となり、好調に推移しました。成長事業と位置付ける Indeed の売上収益は、米ドルベースで58.4%の増収となり高成長が継続しました。また、人材派遣事業は、USG People 社の寄与により、売上収益が25.8%増、EBITDA が38.8%増となりました。

EBITDA マージンは0.7ポイント減の13.7%となりましたが、これは、人材派遣事業の全社売上収益に占める割合が高まったことによるものです。

非経常的な損益等を除いた調整後四半期利益は9.7%増の423億円、調整後EPSは11.3%増の25.34円となりました。

■セグメント別の概況

2017年3月期通期決算発表の際に公表いたしましたが、2018年3月期より事業セグメントを変更しており、従来のその他事業及び調整額の計上の仕方を変更しています。

主にポイントID戦略に係るコストを計上していた、従来のその他事業を、メディア&ソリューション事業の販促領域に移管しております。また、社内ルールを見直して、従来、調整額に計上していた本社関連コストの、事業セグメントへの配賦の仕方を変更しております。

○HRテクノロジー事業

Indeedを利用するクライアントのサービス利用が拡大したことにより、売上収益が前年同期比59.9%増の464億円となりました。EBITDAについては、79.0%増の77億円となりました。なお、引き続き米国に加えて米国外の地域においてもブランド認知度の拡大を図るため、同サービスの広告宣伝を強化しています。また営業社員の採用を進め、営業体制の充実に努めております。

○メディア&ソリューション事業

販促領域において美容分野が成長をけん引したこと、また人材領域において正社員募集及びパート・アルバイト募集を中心に堅調な増収基調を維持したことにより、売上収益が前年同期比2.3%増の1,652億円となりました。EBITDAについては、2.2%減の431億円となりました。これは主に、前年同期に住宅分野の一部の売上計上時期が変更されたことにより、一時的に売上収益が26億円増加しましたが、当期はこれが無いためです。この影響と、2016年7月に株式会社ゆこゆこを譲渡した影響を控除すると、売上収益は5.2%の増収、EBITDAは4.5%の増益となりました。

<販促領域>

美容分野は、2015年に実施した価格戦略の効果が一巡し、売上収益の伸びが前年同期と比較すると緩やかになりましたが、引き続き都市部に加え地方圏でもクライアント獲得に注力したこと等により、取引店舗数の拡大が進展し、売上収益が前年同期比9.7%増の150億円となりました。

住宅分野の売上収益は4.2%減の246億円となりましたが、これは、前述の注文住宅関連分野における前年同期の一時要因が当期は無いためです。この影響を控除すると、住宅分野の売上収益は、6.6%の増加となります。

旅行分野の売上収益は3.1%減の136億円となりましたが、2016年7月に株式会社ゆこゆこを譲渡した影響によるもので、この影響を除いたベースでは、売上収益は13.6%の増加となります。

飲食分野においては、人手不足等を受けて飲食店を取り巻く経営環境に厳しさがみられる中、一部の大手クライアントとの取引が低調に推移し、売上収益は0.9%減の88億円となりました。一方で、飲食店向けの「業務サポートパック」の拡販に注力し、クライアント接点を強化しました。なお、この「業務サポートパック」は、セグメント上は販促領域のその他に計上されています。

この結果、販促領域のEBITDAは、前述の住宅分野の影響により、4.6%減の247億円となりました。住宅分野と旅行分野の前年同期の一時要因を控除すると、販促領域のEBITDAは7.0%の増益となりました。

<人材領域>

国内人材募集分野が、引き続き好調な市場環境を受けて、堅調に推移しました。この結果、EBITDAは、売上収益の増加に加え、前年同期と比較し広告宣伝等の費用が減少したことから、前年同期比11.7%増の207億円となりました。

○人材派遣事業

海外派遣領域において前期に買収したUSG People社の業績が、当期においては期初より取り込まれたこと、また国内派遣領域においても、堅調な市場環境を受けて業績が拡大したことから、売上収益が前年同期比25.8%増の3,180億円となりました。EBITDAは、売上収益の増加に伴い38.8%増の206億円となりました。

<国内派遣領域>

派遣社員実稼働者数が継続的に増加する等、人材派遣市場の緩やかな拡大が続く中、既存派遣契約の継続や新規派遣契約数の増加に注力しました。その結果、売上収益が前年同期比12.6%増の1,257億円となり、通期見通しに対して好調に推移しております。EBITDAは、売上収益の増加と生産性の向上により、52.2%増の113億円となりました。

<海外派遣領域>

前期に買収したUSG People社の業績が、当期は期初より取り込まれたことにより、売上収益が前年同期比

36.3%増の 1,923 億円となりました。

なお、為替変動の売上収益への影響額はプラス 45 億円となりました。

当領域において、新たに業績寄与した USG People 社の業績と為替の影響を控除した売上収益は、4.5%の減収となっております。これは、ユニット経営に基づき収益性を重視した事業運営に取り組んだことに加えて、米国の一部業界の厳しい経営環境等を受けて既存クライアントとの取引が減少した影響によるものです。

EBITDA は、売上収益の増加に伴い 25.1%増の 92 億円となりました。

2018 年 3 月期 通期見通し

■ 連結業績見通し

通期見通しは、期初公表内容から変更ありません。

なお、2017 年 3 月期通期決算発表の際には暫定版として開示していた 2017 年 3 月期 IFRS 実績が確定値となりましたので、2018 年 3 月期の通期見通しの前年同期比についても修正を行っております。

以上

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。